

子どもたちの瞳キラキラ！ B & G ゆげ海洋クラブ結団式&活動開始

7月18日の「海の日」、松原海水浴場において平成17年度のB & G ゆげ海洋クラブ結団式が行われ、砂浜のクリーンキャンペーンを行った後、活動を開始しました。

今年は、弓削地区の他に岩城・魚島地区からの参加もあり74名のクラブ員で活動することとなりました。

この海洋クラブは、海洋性及び陸上のスポーツやレクリエーション活動をととして、クラブ員の豊かな人間形成や体力向上を図るとともに、海事に関する理解を深め併せて相互の親睦を図ることを目的に実施しています。

この日は、カヌーやヨット等の練習を行った後、活動開始日ということで保護者の方が作った美味しいカレーをいただき、楽しい時間を過ごしました。



7月15日
～8月7日

弓削商船高等専門学校の学生が人命救助

7月15日、弓削商船高等専門学校の学生3人が、海で溺れていた男性2人を救助したとして、今治海上保安部から人命救助の表彰を受けました。

通学に利用している船に乗船中、宮窪沖で男性2人が釣り船から転落して溺れているのを発見し、旅客船の乗組員らと協力し、船まで引き寄せて救助しました。

今治海上保安部長から「率先して人命救助に取り組んだ功労をたたえたい」と、船上における適切かつ勇気ある迅速な行動が高く評価され、3人に表彰状及び記念品が手渡されました。



左から、小牧洋介さん（情報工学科5年）、小野邦弘さん（商船学科5年）、今治海上保安部長、加納靖将さん（電子機械工学科5年）

目指せ！世界チャンピオン！！ 世界陸上日本代表（やり投げ） 村上幸史選手（生名出身）を激励

7月19日、8月に行われる世界陸上ヘルシンキ大会出場を控えた生名島出身の村上幸史選手（やり投げ）が、母校に招かれて帰郷しました。

まず、生名支所に来ていただき、上村町長や生名支所職員が、世界陸上での健闘を祈って激励しました。

その後、生名小学校と中学校を訪れ、村上選手から子どもたちへのいろいろなアドバイスがありました。子どもたちは世界レベルで活躍する先輩からのメッセージに真剣な表情で聞き入っていました。また、子どもたちから村上選手への熱い激励の言葉が寄せられ、村上選手も世界陸上での活躍を心に秘めたように見えました。

今回の世界陸上での目標は「世界の8人に入り、入賞すること。そしてこれをきっかけに世界のトップレベルで戦えるようになりたいです。」と語ってくれました。

村上選手は、9日に行われた予選に出場しましたが、惜しくも決勝進出を逃しました。



小学生からのメッセージ



やり投げを教えてもらう児童



中学校での講演

生名地区夏季大学開催

7月22日、生名開発センターにおいて、生名地区夏季大学が開催されました。今年は、愛媛県社会福祉協議会事務局次長の菅野慎二先生を講師に招き、「高齢化に伴う地域づくり・役割」と題して、頭の体操クイズや介護保険制度の説明、そして、地域づくりの事例を教えてくださいました。

今年の参加者は約80人で、少し寂しさも感じまし



たが、来年は是非ご聴講いただきますようお願いいたします。

土踏まずを見てみよう！

7月23日、魚島保健センターにおいて、町保健師を講師に、子育て講座「子どもの発育に合わせた親の関わり方」が開催されました。

子どもの成長、特に土踏まずの大切さについての話にお母さん方は聞き入っていました。後半は親子で土

踏まずの型を取ったり、足の裏や指を使ったゲームを行ったりしました。親子でふれあう楽しい一日となりました。



加戸守行愛媛県知事が来町 「こんにちは！知事です」開催

7月29日、せとうち交流館において、「こんにちは！知事です」が開催されました。

これは、知事が地域に出かけ、地域住民との意見交換を行い、地域の意見・要望を把握し、可能なものから県政に反映していくことを目的に開催されているものです。

この日は、愛媛県から加戸知事や今治地方局の各部長等が来町し、上島町から各地区から19名の意見発表者と傍聴者約80名が出席しました。

まず、加戸知事から県政の最重要課題である「愛と心のネットワーク」づくりについての講演があり、その後、町民との意見交換会が行われました。町民から上島架橋のことや教育関係のこと等の様々な意見や要望が出され、加戸知事からも今後の対応方法などの丁寧な説明があり、充実した意見交換が行われました。



ナイスショット連発！ 上島町老連が初のグラウンドゴルフ大会

7月24日、岩城小学校において、上島町老人クラブ連合会による初めてのグラウンドゴルフ大会が開催され、佐島・生名・岩城地区から40名（6人×6組）が参加しました。グラウンドゴルフは初めての人もいましたが、すぐに要領を会得し、8ホールを3周するコースで打数を競いました。炎天下にも負けず、老人パワー全開に全員無事故でプレーを終えました。

競技終了後は、友愛会館に会場を移し、成績発表が行われた後、カラオケをしながらの昼食懇親会が行われ、交流を深めました。

成績は次のとおりです。

第1位（65打）高下八重子〈岩城〉

第2位（66打）沢村八重子〈岩城〉

第3位（70打）浦中 孝義〈佐島〉

《最高齢者賞》

（男）高本浩〈83歳・岩城〉

（女）西村クミ子〈83歳・岩城〉



ナイスショット！



木陰でひと休みする参加者

上島町消防庁舎建設検討委員会が 上村町長に答申書を提出

上島町では、安心と安全のまちづくりの重要事業として、消防庁舎の建設を計画していることから、今年4月に上島町消防庁舎建設検討委員会を設置しています。

これまで消防庁舎の建設場所の現地調査等、数回の検討委員会を行い、委員の意見を取りまとめた答申書を作成しました。



そして8月2日、小澤委員長から上村町長へ答申書が提出されました。今後、この答申書を基に消防庁舎の建設計画の実現に向けての検討が行われます。

夏休み体験交流で“竹とんぼづくり”

7月29日、せとうち交流館木工房において、木工グループ「愛木会」主催による「竹とんぼづくり」の教室が開催されました。

夏休みということで、多くの子どもたちが集まり、竹の削り方や左右のバランスなどを教えてもらい、何度も試しに飛ばしてみながら、やっとのことで完成させていました。



人形劇がやってきた！

8月3日、魚島開発センターにおいて、毎年恒例の劇団ほびの公演が開催され、親子連れやおじいちゃん、おばあちゃんまで大勢が来場しました。

今回の話は「いたずらオバケ、ケンムン」。いたずら好きのケンムンの軽快な動きに、子どもたちは暑さも忘れて夢中になっていました。



劇に夢中の子どもたち

岩城婦人会が廃油石けんづくり

岩城婦人会では、環境保全活動の一環で、廃油石けん作りを行っています。水と苛性ソーダを混ぜ合わせ、廃油を加えて40分くらいひたすら混ぜます。混ぜているとだんだん固まりはじめ、石けんが出来てきます。豆腐の容器に小分けし、約1ヶ月置くと出来上がりです。

この石けんは、さくら祭りや文化展、産業祭りの時に無料で配布しています。靴下や靴、泥で汚れたユニフォームなどの頑固な汚れを落としてくれると好評です。



岩城保育所で水泳教室&夕涼み会

8月2日、長江総合グラウンドプールにおいて、講師に生名スポレクの村上勝義さんを招いて、岩城保育所の年長児を対象に水泳教室が行われました。短い時間でしたが、子どもたちはみるみる上手になり、楽しい水泳指導を受けました。



8月5日の夕涼み会では、“太鼓だワッショイ夏祭り”が開催され、子どもたちの盆踊りや保護者によるアトラクション、そして、岩城太鼓の皆さんと太鼓のリズムを楽しみました。

目の前で繰り広げられる迫力ある太鼓演奏に子どもたちも感激していました。



第20回 ふるさと夜市

8月6日、弓削港のシーサイドモール弓削周辺において、今年で20回目を迎えたふるさと夜市が弓削商工会の主催で開催されました。今年から装いも新たに、弓削港へと会場を移し、上島町の他地区からも多くのお客さんが訪れました。

ステージでは、太鼓演奏や地元の高校生・おっちゃんずによるバンド演奏、フラダンス・マツケンサンバなどの催しが行われ、大変賑わいました。また、イベントの最後には、弓削島では初めてではないかと思われる夜の花火が打ち上げられ、お客さんも間近で見る花火に酔いっていました。



オープニングの太鼓演奏



多くのお客さんが訪れました



マツケンサンバ！？



売り場も大賑わい

「アンサンブル エルフィン サマーコンサート」開催

8月7日、せとうち交流館において、アンサンブル・エルフィン・サマーコンサートが開催され、生の本物の音楽を聴こうと大勢のお客さんが来場しました。

今回のコンサートは、弓削島出身の酒井泰子さん（旧姓：山尾）ら9人の歌手が来町し、「日本の歌・世界の歌を声のハーモニーで」というタイトルで行われました。

ほたる・夏の思い出・イエスタデイなどの名曲が歌われ、観客も美しいハーモニーに聞き入っていました。



▲右から2番目が酒井さん



未来のJリーガーを目指せ！ 弓削招待サッカー大会

8月6日、弓削小中学校グラウンドにおいて、弓削サッカースポーツ少年団主催による弓削招待サッカー大会が開催され、6チームによる熱戦が繰り広げられました。

この日は、猛暑となり選手には苦しい天候となりましたが、弓削チームも大勢の保護者の声援を受けながら、日頃の練習の成果を発揮し健闘しました。



第8回 ゆげシーサイドフェスティバル

8月7日、松原海水浴場において、ゆげシーサイドフェスティバルが行われ、さんまレースに59チームの総勢約250名の参加者がありました。さんまレースは、さんま船に4人が乗り込み沖に浮かべたブイを回ってくる競技で、予選から決勝まで白熱したレースが繰り広げられました。レースの合間に行われたタル飛びサスケにも多くの参加者があり、不安定な浮の上をバランスをとりながら必死に挑戦していました。



各艇一斉にスタート



藤田徹也さんによる選手宣誓



タル飛びサスケ

